

アスリートと共に働き、日常的な交流をもつことが 深い理解と親近感につながり、 応援にも自然と力が入る

障がい者の雇用・職場定着支援とスポーツ振興に力を入れる三井住友海上火災保険株式会社。2015年からはパラアスリートも採用。長年培ってきたノウハウをベースに、社員が自然とパラアスリートを応援したくなる、そして選手も安心して競技に打ち込める環境づくりを目指している。



三井住友海上火災保険株式会社

三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

アスリートとしても、社会人としても 一流であってほしい



「チームWITH」の集まり

同社は、数々の世界で活躍するアスリートを輩出している企業スポーツの名門。1987年、障がい者職場定着推進チーム「チームWITH」を発足させ、以来、障がい者雇用促進のための受け入れ態勢づくり、職場定着のための職場環境づくりに力を入れてきた。

2015年にパラアスリートを採用し、現在は計5名が在籍している。

「アスリートは引退後の人生の方が長い。それゆえ、一

流のアスリートであると同時に一流の社会人でもあってほしい。」との思いから、アスリートは全員、正社員として雇用し、各職場に配属。就業時間や日数は柔軟に決めており、競技団体などから派遣依頼を受けての大会や合宿への参加は業務扱いとしている。と同時に、他の社員同様、しっかりと仕事も割り振られている。例えば、米岡聡氏は、視覚障がい者であり、パラトライアスロンとブラインドマラソンの2種目で強化指定を受けているトップ選手である。国内外での合宿や遠征に参加する機会も多く、月の大半出社できないこともある。それゆえ、会社側もしっかりとフォロー体制を築いてくれている。不在期間中の仕事は、米岡選手がチームのメンバーと調整している。これは社会人として必要なスキルでもある。

“日本一、世界一”の応援団がかけつけるのは、
同じ企業で働く仲間だから

同社には、同社社員や代理店などで構成するスポーツ後援会「ガッテンダース」(会員数約6000人)があり、



観戦会



体験会・講習会



ボランティア



協賛



アスリート雇用

企業情報

三井住友海上火災保険株式会社

【担当部署】人事部

【所属人数】4名

【住所】東京都千代田区神田駿河台3-9

【電話】03-3259-3111(代表)

【URL】<http://www.ms-ins.com/>



会員を中心に、多くの社員が応援に駆け付ける。「私たちは日本一、世界一の応援団だと自負しています。」と胸を張る同社人事部の杉山仁スポーツ振興チーム長。



(左)杉山スポーツ振興チーム長
(右)米岡選手(パラトライアスロン・ブラインドマラソン)

「気配で応援団がいることに気づくこともあります。それほど、当社の応援団は存在感がすごい。もう、玄人ですよ(笑)。本当に応援がほしい場所に来てくれるので、そこで『米岡っ』と名前を呼ばれたりすると、自分にムチを入れてもうひと踏ん張りできるんです。本当に心強いです。」(米岡選手)

「競技では負けることもあれば、ときには、出場すらかなわないこともあります。しかし、アスリートはどんなに悔しい思いをしてもまた立ち上がり、次のレースに向けて準備に入ります。そんな姿を間近で見たら、応援せずにはいられないし、それこそがアスリートを雇用する意義です。」と杉山チーム長は、強調する。



応援に駆け付けた社員の皆さん

また、その結果に関わらず、大会後、選手は必ず応援団の元を訪れてあいさつし、一緒に写真撮影をしたりして交流を図る。これも大切なポイントである。

そうした体験をすることで、自然と「また応援に行きたい」と思う社員が増え、さらに、同僚や家族、友人に「行ってみるといいよ」と声をかけたり誘い合ったりするようになる。こうして応援の輪が徐々に広がっていく。

パラスポーツ振興の肝は地道にコツコツ

パラスポーツは同社にとっては歴史が浅く新しい競技。そのため、もっと周知が必要である。しかし、爆発的に応援者を増やす策はない。

スポーツは盛り上がる時も、そうでないときもある。そもそも、それなりの結果が出るまでには時間がかかるものである。だからこそ、イントラネットや社内報、社内衛星放送、スポーツ後援会「ガッテンダース」会員専用HPなどを通じて、コツコツと情報を流し続けるなど地道な取り組みを行って、パラスポーツの応援も企業文化として根付かせていくことが大切だと考えている。

「パラアスリートは障がいの種類も程度も、また競技レベルも一人ひとり異なり、当然、その悩みも必要な支援も違います。社員として身近に接することで、そうしたパラアスリートやパラスポーツへの理解が深まり、自然と応援する気持ちが生まれ、輪も広がっていくのではないのでしょうか。大きなことをする必要はないと思います。私たちもパラスポーツ振興に関してはまだ道半ばなので、これからも、できることから取り組んでいきます。」(杉山チーム長)

コロナ禍における取組・今後の方向性

パラアスリートのみではなく、当社所属の他部の選手とも協力し、講演活動をはじめとした「人々の幸せを支える」ためのサステナビリティ活動を今後も行っていく予定である。また、そのような活動内容を、各種媒体を通して発信していくことで、パラスポーツへの理解促進や競技の認知度の向上にもつなげていく。